

第15回 あげお未来創造市民会議 会議録

1. 日 時 令和2年8月5日(水) 14時00分～15時20分

2. 場 所 上尾市文化センター小ホール

3. 出席者 委員：飯塚 純 ・伊原広茂 ・大澤サユリ ・大塚常司 ・小川和男
桐原陽子 ・小島 勝 ・小牟田健治 ・高橋雅之 ・竹村絵里
刀根正克 ・中澤正俊 ・能登 貢 ・萩原和也 ・本城文夫
増田澄雄 ・的場保子 ・宮田敬生 ・矢島通夫 ・山尾三枝子
山口 直 ・横堀鶴雄

(欠席委員 市倉育江 ・大木晴夫 ・岡部千里 ・小川早枝子 ・河原塚透
鈴木靖代 ・関本正弘)

事務局：行政経営課掘部課長・本郷主幹・東海林主査・三浦主任

加計外員：永澤主幹 ・松本主査 ・鈴木(彰)主任 ・大橋主任 ・鈴木(陽)主任
吉岡主任 ・野澤主任 ・林主任 ・田中主任 ・細井主任
石川主任 ・野間主任

コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

4. 次 第

〈第15回あげお未来創造市民会議〉

- 1 開会
- 2 上尾市長あいさつ
- 3 提言書の発表
 - ・基本構想に関する提言
 - ・基本計画に関する提言(グループ発表)
- A 健康・医療グループ
- B 協働・コミュニティグループ
- C 行財政運営グループ
- D 防災・防犯・交通安全グループ
- E 福祉グループ
- F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園グループ
- G 子育てグループ
- H 文化・スポーツグループ
- I 教育グループ
- J 産業グループ
- 4 提言書の提出
- 5 閉会

5. 配付資料 次第

発表スライド資料

第6次上尾市総合計画の策定に向けた市民会議提言書

6. 議事概要

〈第15回あげお未来創造市民会議〉

1 開会

司 会：今日は、お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。これより、第15回あげお未来創造市民会議を開会いたします。

司 会：それでははじめに、上尾市長からご挨拶をお願いします。

2 上尾市長あいさつ

市 長：今日は、次期総合計画に対する意見・提言をいただけるということで、私は大変楽しみにしております。振り返りますと、昨年5月に市民会議の委員に委嘱させていただきました。それ以来、「上尾市がどのようなまちになったらよいか」、また、そのためには「どのようなまちづくりを行っていけばよいか」など、全14回にわたり、熱い議論をされてきたと伺っております。あらためて心から感謝申し上げます。会議終盤には、新型コロナウイルス感染症の拡大という、これまでに体験したことのない状況となり、会議にも影響があったかと存じます。いまだに終息の見通しが立たない状況ではございますが、今日は、感染症対策を講じた上での発表となります。委員の皆様のご意見を次期総合計画に反映させることは、とても意義あることと考えておりますので、限られた時間ではございますが、どうぞよろしく願いいたします。

3 提言書の発表

司 会：ありがとうございました。これまで委員の皆さまには、第14回の市民会議で議論を重ねていただき、「基本理念」「将来都市像」及びテーマ毎に「理想の状態」、「理想の状態を達成するうえで必要な取組み」、「市民と行政の役割分担」について、グループごとに熱い討議して頂きました。

本日はその討議内容を、市長への提言と言う形で発表して頂きたいと思います。本日の発表の流れについては、初めに、矢島委員長より「基本理念」や「将来都市像」など全般的な提言内容について発表し、その後、これまで各委員がそれぞれ2つの分野、合計10分野について協議していただいた提言内容について発表していただきます。

ただし、新型コロナウイルス感染症対策の観点や危機管理の観点から、1グループ5分以内という短い時間の制約のもとでお願いしておりますことから、提言内

容については、ある程度集約した形の発表とさせていただいております。
つきましては、提言書の内容につきましては、市長・副市長をはじめ、各部署において、後日よく読ませていただき、今後、施策を検討するうえでの参考にしてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただければと存じます。
それでは、まず市民会議を代表しまして、矢島委員長から、ご挨拶とともに、全体の総括と「基本構想」についての提言のご説明をお願いできればと存じます。

委員長：本日は、コロナ禍という難しい状況ではありましたが、このような場を設けていただき、市長をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。あげお未来創造市民会議は昨年5月に発足し、1年以上にわたり、熱い議論を交わしてまいりました。その中で私が感じたことは、皆さんが本当に熱い想いを持っており、「私たちの暮らす上尾市をもっとよいまちにしたい。」そんな気持ちに溢れた会議だったということです。

上尾市は、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中でも、微増ではありますが、人口が増えています。しかし、実態としては、生産年齢人口は減少し、少子高齢化は進んでおり、市の財政状況も厳しくなっていくことも見込まれています。しかし、こうした困難な時代状況にあればこそ、まちの活力を維持・向上させ、将来にわたって市民の笑顔が絶えない上尾市を実現していきたいと感じており、そのためには、もっと地域のつながりを育み、上尾市ならではの強みを磨かねばならない。従来の縦割り意識に囚われず、分野横断的な取組を進めるべきだ。そんないくつもの共通の想いが、市民会議の中で浮かび上がりました。私たちの提言が、「第6次上尾市総合計画」の策定に活かされ、市民と行政が一丸となって上尾市の未来に向けたまちづくりを進めていくことを願っております。

それでは、私から委員を代表して、総合計画の基本構想にあたる10年後目指すべき姿や基本理念についての提言の発表をさせていただきます。基本構想の議論にあたっては、4つのグループに別れて議論しました。それぞれ、「未来の上尾市の望ましい姿」を思い描き、それを達成するために何をしたらよいか。それはどのような状態か、などを話し合い、「基本理念」と「将来都市像」を考えました。提言書の7ページ以降に書かれておりますが、まず、ひとつのグループでは、「未来の上尾市の望ましい姿」として、人口が維持され、コミュニティの力も保たれている状態とし、それを達成するための基本理念として、「創造」「協働」「共生」「発信」「受援」を掲げました。このグループは主に安心安全を専門に議論してきたグループであり、「受援」という言葉は、災害時、支援などを受け入れる体制作りについて考えたフレーズとなります。そして将来都市像としては、「共に生きる 安心安全なまち あげお」「緑と安全 活気あふれるまち あげお」と、「安全」が守られることを念頭に考えたところです。

次のグループでは、「未来の上尾市の望ましい姿」として、誰もが健康でいきいきと暮らせる状態とし、それを達成するための基本理念として、「人財育成」「自助、共助、公助」「フラットシティ」などございましたが、この「フラットシティ」に

については、上尾市の地形が平たんなことに掛けて「人もフラット」つまり、人とのつながりに障害や壁がなく、分け隔てない関係を意味しています。

将来都市像としては、「住みたい 住み続けたい ちょうど良いかげん あげお」や「開かれたまち」をイメージした「東日本の人材交流拠点都市 出会えるまち あげお」「めざせ中核市 あげお」と、意気込みを謳ったものなどを考えたところです。

次のグループでは、「未来の上尾市の望ましい姿」として、シティセールスが成果を上げ、市民活動コミュニティが活発な状態とし、それを達成するための基本理念として、「緑豊かな安心を感じられるまちづくり」「市民の目で次代を見据える上尾ならではの異次元のまちづくり」「市民と行政が一体となって取り組むまちづくり」と考えました。」将来都市像としては、「環境共生都市」のほかに、元気なあげおを作ろうとの思いから「市民のために本気でなんでもやる都市 あげお」や「森羅万象 われらが エナジーあげお The 市民力爆発的推進都市」といった少しユニークなものもございました。

次のグループでは、「未来の上尾市の望ましい姿」として、子育てしやすいまちであり、教育に特化し充実している状態とし、それを達成するための基本理念として、「安心して過ごせる」「主体性の発信」「スポーツ、文化の充実、市民活動の発展」「公助と共助のバランスが良く、人とまちがつながる」と考え、

将来都市像としては、「あそびがいっぱい 笑顔あふれる街 あげお」を考えました。これは、子どもから大人まで誰に対しても施策が充実しており、上尾が笑顔で暮らせるまちになればよいとの思いがこもっています。特に「あそび」という言葉には様々な思いがこもった言葉となっております。

以上で、基本構想についての提言について説明は終了とさせていただきます。

司 会：ありがとうございました。続いて、提言書の発表に移りたいと思います。基本計画に関する提言を各グループから発表させていただきます。「A 健康・医療グループ」から順番に発表していただきたいと思います。「健康・医療グループ」の皆さまはご起立ください。発表者は、小牟田さん。メンバーは、能登さん、増田さんと、本日ご欠席の大木さん、岡部さんです。それでは発表をお願いいたします。

委 員：A グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「健康寿命が長い」「いるだけで健康になれるまち」としました。この目標を達成するために、「人の健康」「地域の健康」「まちの健康」に分類して考えました。

「人の健康」では、一人ひとりが「健康づくりに関心を持っている」「運動習慣を身に付けている」「病気の予防ができて」「介護予防ができて」「ストレス解消ができて」などにより、自分の健康を自分で守ることができている状態が理想として考えました。

「地域の健康」では、「地域住民のつながりが強く」「市民の活発な社会参加」が行われ、「市民の交流・コミュニケーションが取れる機会・場がある」状態や、

「健康経営」が広く実践されている状態が理想と考えました。

「まちの健康」では、「健康に関する相談がしやすい」「健康診断受診率が高い」「かかりつけ医による健康管理ができて」「病院の情報にアクセスしやすい」「医療を受けやすい環境が整っている」「公衆衛生が充実」、このようなまちが形成されていることが理想と考えました。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、感染症予防対策を進めるとともに、生活習慣病の予防、健（検）診を積極的に受診するなど、自分自身の健康管理に取り組みつつ、社会参加及び健康づくりに関する担い手となるなど、積極的な地域参加に努めることが必要です。

また、行政に期待することとして、体操への参加や健（検）診の受診でポイントが貯まる制度や健康に関する市独自の認証マーク作成など、市民の健康づくりを動機づける仕組みの創出ほか、地域活動の担い手育成や、健康づくりに関する積極的かつ継続的な情報発信を求めたいと思います。（小牟田委員）

司 会：ありがとうございました。続いて、「B 協働・コミュニティグループ」に発表していただきたいと思います。「協働・コミュニティグループ」の皆さまはご起立ください。発表者は、小島さん。メンバーは、本城さん、的場さん、山尾さん、山口さんと、本日ご欠席の関本さんです。それでは発表をお願いいたします。

委 員：B グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「交流・活動の場づくりができて」「いつでも活動できる場所がある、地域の活動に誰もが参加できる」としました。この目標を達成するために、「市民活動・コミュニティ支援」「交流」「情報共有」「人権・男女共同参画・平和」に分類して考えました。

「市民活動・コミュニティ支援」では、各地域単位など、歩いていける距離に市民が集える場を作り、誰もが気軽に地域活動に参加でき交流を深め、地域の支え合いを生み出している状態が理想と考えました。。

「交流」では、国や世代を超えた「交流」が日常的にあることで、「人権・平和」といった問題をも意識できることになり、誰にとってもやさしいまちである状態が理想であると考えました。。

「情報共有」では、市民目線のわかりやすい情報発信、地域内での災害時の情報共有をすることで、地域集団による支え合いが生まれます。市民団体や行政、地域の連携により、何時でも安心できる状態が理想と考えました。。

「人権・男女共同参画・平和」では、協働を通して誰もがまちづくりに参画でき、すべての人が平等で平和なまちである状態が理想と考えました。。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、市民主体でイベント・活動を行うために、リーダー養成講座への参加や積極的な意見交換をする場への参加など、教育・人権等の活動をはじめ様々な分野で情報交換・共有に努めるとともに、市民目線に立った情報を発信することが必要です。

また、行政に期待することとして、交流活動場所の提供や担い手の育成など市民活動を支援するための仕組みづくりに努めるとともに、協働・コミュニティに関する情報のほか災害等に関する情報などの提供・発信の強化、市民目線に立った対等な協働の在り方を検討することが求められます。また、人権等に対する理解のさらなる浸透も求めたいと思います。(小島委員)

司 会：ありがとうございました。続いて、「C 行財政運営グループ」に発表していただきたいと思います。「行財政運営グループ」の皆さまはご起立ください。発表者は、小川和男さん。メンバーは、飯塚さん、中澤さん、萩原さん、宮田さんと、本日ご欠席の小川早枝子さん、河原塚さんです。それでは発表をお願いいたします。

委 員：こんにちは。地頭方街づくり協議会の小川です。上尾に68年間住んでいます。私が育った頃は各家庭でニワトリやヤギを飼っていた事を思い出します。それでは、あげお未来創造市民会議 協議テーマ「C グループ行財政運営」の提言書の発表をします

我々のグループでは、理想の状態を「行政運営」「財政運営」「公共施設」の3つのカテゴリーに分類しました。

「行政運営」では、自助・共助・公助の分担を明確にし、着実な方策を市民との協働により効率的・効果的に事業を進め、選択と集中による事業の重点化や効率化を図る体制が整っている状態が理想です。

「財政運営」では、事業のスクラップ&ビルドにより、少ない費用で効果的な事業の執行を行うとともに、歳入を増やすため、地元の雇用を増やし、人口が増えている状態が理想です。

「公共施設」では、施設の安全性を確保するとともに、障害者や高齢者、子どもなど多様なニーズに応えられる場として機能している状態が理想です

次に取組方法を議論しました

「行政運営」では、ICTを積極的に活用し、業務の効率化・事務作業の見直し、そして行政サービスのワンストップ化を行う等の議論を行いました。

「財政運営」では、スクラップ&ビルド手法により、単純なスリム化ではなく見直し予算・配分を作り直す等の議論をし、変化する上尾に見合う活力ある企業の誘致を進める。手法としては会社立地条件の改善、土地の有効活用する為に工業・農業特区の創設等の議論を行いました。

「公共施設」では、農地を含む遊休地の有効活用、誰でもいつでも利用出来る大規模公園整備、若い世代が子育てしやすい施設など、公共施設の戦略的な施設整備等の議論をしました。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、上に掲げた取組みを実行していくに当たり、私たちが進めること、行政に期待することについて、次のとおり提案します。

「我々市民が進める事」としては、自治会や地域団体・ボランティア活動を通してリサイクル活動やイベントの企画・参画など自分達で出来る事は自分で実施する事が必要だと考えます。

「行政に期待すること」としては、財政基盤の強化のため、工業・農業特区の設置や、ボランティアや民間活力の活用など行政と市民の協働を探りつつ、行政の重点化や効率化に努めることが求められます。

発表は以上です。

文章にするときれいにまとまっていて、前回平成 28 年版と内容はあまり変わらないと云う委員もいました。

また、今回はもっと具体的なものにしたいと言っている委員もいました。その方は各地域に地下水井戸を掘りたいと何度も提案していました。

また、この市民会議開催の中、新型コロナウイルス感染防止による、緊急事態宣言が発令されました。

新型コロナウイルス感染防止の為、全世界で生活スタイルが変わり、又色々な対策が取られ、良くなった点も多々在ります。テレワークもその一つでテレワークにより車通勤が減り、大気汚染が減少しているようです。

「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」を考慮した産業と技術革新のインフラ整備がすぐにも必要です。「ビフォアコロナ」に戻せる産業・生活スタイルもあれば、過去に戻す事のハードルが高い形態も有ります。

その構造改革をいち早く上尾市が行う事を期待します、過去にこだわらず、法律を含めたしきたりにもこだわらず、前向きな発想が今必要です。

最後に市長への 3 つのお願いです。今回、未来創造市民会議に参加して、委員皆様そして若い市職員が上尾市を変えたいと云う意欲を強く感じました。是非、我々市民と共に上尾市を改革しましょう！上尾市を活気有る街にしましょう！上尾市から発信しましょう！本来であれば発表には 30 分程度必要ですが、5 分との事ですので残念ですが、これで「C グループ行財政運営」の提言書の発表とさせていただきます。ありがとうございました。（小川和男委員）

司 会：ありがとうございました。続いて、「D 防災・防犯・交通安全グループ」に発表していただきたいと思えます。「防災・防犯・交通安全グループ」の皆さまはご起立ください。発表者は、刀根さん。メンバーは、伊原さん、大澤さん、大塚さん、高橋さんと、本日ご欠席の市倉さんです。それでは発表をお願いいたします。

委 員：D グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「安心・安全な暮らしを実現できるまち」としました。この目標を達成するために、「交通安全」「防災・危機管理」「防犯」「消防」「消費生活」に分類して考えました。

「交通安全」では、事故に遭わないため、地域の見守り体制が強化され、一人ひとりの交通マナーの意識が向上している状態が理想です。

「防災・危機管理」「防犯」では、災害に備えておくこと、犯罪に巻き込まれない

ことなど、平常時から意識して備えている状態が理想です。また、ウイルス感染予防の観点から新たな避難所体制の確立も大切になります。

「消防」では、消防施設見学やAED・救命講習への参加など、一人ひとりの消防や救急に対する意識が向上している状態が理想です。

「消費生活」では、消費者問題を考える場を創り出し、消費者被害の防止に地域ごとに取り組んでいる状態、また、地産地消を促進しつつ、リサイクル意識・食品ロスの軽減などについて市民の関心が深められている状態が理想です。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、日頃から近隣住民とコミュニケーションを取り、個人でも有事に備えた行動と冷静な判断が必要であり、交通安全や防災・防犯に関する情報共有や市民参画を通して、分野横断的に市民意識の醸成に努めることが必要です。また、「消費生活」でも「防災・防犯」との分野横断的連携が求められますが、特に高齢者の消費者被害防止については「福祉」との連携を意識して取り組みます。

また、行政に期待することとして、自転車道の整備や防犯カメラの設置など交通安全・防犯に関するハード整備や、地域防災計画の指導や空き家バンクの活用などソフト面の仕組みづくりが求められるほか、地域のリサイクル情報の提供、避難者数などの情報発信や避難所の運営など、地域安全に関する各種取り組みのPRを行い、市民との協働・連携による安全対策を求めたいと思います。複合災害の際は、横断的な取り組みを通して、行政だけでなく市民一体となった対応が重要になります。(刀根委員)

司 会：ありがとうございました。続いて、「E 福祉グループ」に発表していただきたいと思います。「福祉グループ」の皆さまはご起立ください。発表者は、桐原さん。メンバーは、竹村さん、矢島さん、横堀さんと、本日ご欠席の鈴木さんです。それでは発表をお願いいたします。

委 員：E グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「障害の有無や年齢、暮らし方などに関わりなく、誰もが参加できるコミュニティがある状態」としました。この目標を達成するために、「生活福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」の分野を横断して、「みんなにとって良いこと」を1人でも多くの人が考えている社会を実現する必要があります。だれもが福祉の受け手であり、担い手であるという考えを皆が持つことが重要になります。

「生活福祉」では、「ひとり親世帯や貧困について、地域の人たちの理解がある状態」や「生活保護に至る前にセーフティーネットが働く状態」など、市民意識の醸成や支援の仕組みが整っている状態が理想です。

「高齢者福祉」では、「安心して暮らせる」「生きがいを持てる」など高齢になっても安心感がある生活を送ることができる状態が理想です。

「障害者福祉」では、障害のある方や高齢者が、その人らしく暮らせる社会が実現されていることが理想です。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、「できる人ができる時にお声がけをする」「障害者や高齢者の生活を見守る」「自分が利用した福祉サービスを SNS 等で発信する」、近隣の人への気配りなど、「誰もが住みやすいまちの実現」に向かって、身近なところから積極的に交流・活動することが必要です。

また、行政に期待することとして、歩道や施設のバリアフリーの整備などハード面の整備と、働き方改革や障害者や高齢者の相談支援、交流機会の充実などソフト面の整備のほか、福祉サービスへの認知向上など広報活動を通じた、情報発信が求められます。また、男性の育児休業取得推進など、市職員が率先して働き方改革に取組みアピールすることを求めたいと思います。(桐原委員)

司 会：ありがとうございました。続いて、「F 都市基盤・公共交通・環境・緑地・公園グループ」に発表していただきたいと思います。発表者は高橋さんです。なお、F～J グループは、2 巡目の発表となりますので、委員のご紹介は割愛させていただきます。それではお願いいたします。

委 員：F グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「SDGs の実現に向けて行政・市民一体になった都市づくり」としました。この目標を達成するために、「上水道・下水道、河川」「土地利用・住環境」「交通・道路」「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」に分類して考えました。

「上水道・下水道、河川」では、災害時にも安心・安全な水を継続的に供給するなどライフラインが確保され、持続可能な上下水道経営が適切に運営されている事が理想です。また、浸水被害の低減のため、河川が整備され、雨水タンクが設置されている状態が理想です。

「土地利用・住環境」では、周辺環境と調和のとれた柔軟な土地利用を図るとともに、緑地が適正に保全されることで、住みたいと思うまちと感じられる状態が理想です。

「交通・道路」では、都市計画道路や生活道路などが整備され、自転車道の整備など自転車利用環境が整っており、各拠点へのアクセスの利便性が高い状態が理想です。

「環境保全、廃棄物・リサイクル、生活環境、みどり」では、災害時も対応できるオープンスペースなどの緑地確保や大規模公園の整備ほか、SDGs に関わる取組を推進し、効率的、効果的なリサイクルが推進できている状況が理想です。状態が理想です。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、SDGs の目標の理解に努めるとともに、ゴミの減量・分別、食品ロス削減に取り組むほか、若者を中心とした次世代のリーダー育成や地域の環境活動への参加など、積極的な市民参加が必要です。

また、行政に期待することとして、ハード面では、災害時にも対応できる上下水

道整備や安心・安全な道路や河川整備など、災害に負けないまちづくりが求められているとともに、利便性のよい公共交通や緑や水辺環境の整備など良好な住環境の整備が求められます。また、適切な維持管理として計画的な修繕や改修（長寿命化）のほか、ソフト面では、住民がまちづくりに参加しやすい体制・仕組みづくり、ボランティアが活動しやすい環境整備など市民参加の制度づくりも求めたいと思います。（高橋委員）

司 会：ありがとうございました。続いて、「G 子育てグループ」に発表していただきたいと思います。発表者は萩原さんです。それではお願いいたします。

委 員：G グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「安全・安心に子育てできる」「頼れる」「子どもたちの希望や自己肯定感が生まれる」環境があるとしました。この目標を達成するために、「子育て」「青少年」に分類して考えました。

「子育て」では、安全・安心に子育てできる環境が充実している状態が理想です。仕事と子育ての両立や、精神的にも孤立しない環境を作るためには、周りの理解や相談できるような頼れる人物が必要となり、地域で子どもを育てる意識が大切です。

「青少年」では、多様な育ちを認めることや、地域との関わり合いを持ちながら、安心して集える場を創造すること、地域の見守り活動等の拡充により、子どもたちが自由に学べる環境が整っている状態が理想です。このことから地域の人と関わり合いを持てる場所や機会を創出することで、安心して集える場の創造につながると考えます。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、子育ての経験を生かしたボランティア活動など市民団体への参加や子育て失敗談、子育て世代へのアドバイス等の情報を共有するとともに、地域の青少年の見守り活動などへの参加が必要です。また、行政に期待することとして、子育て世代のニーズを把握するとともに、子育て施設の維持・再整備や働き手の確保のための補助金の支給などが求められます。また、地域の居場所づくりや多世代交流の場の創出など、子育て・青少年育成のための環境づくりを求めたいと思います。（萩原委員）

司 会：ありがとうございました。続いて、「H 文化・スポーツグループ」に発表していただきたいと思います。発表者は矢島さんです。それではお願いいたします。

委 員：H グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「文化・芸術・スポーツ・レクリエーションに多世代で楽しみながら取り組める状態」としました。この目標を達成するために、「文化・芸術、文化財」「生涯学習」「スポーツ・レクリエーション」に分類して考えました。

「文化・芸術、文化財」では、上尾の歴史、文化・芸術に関する教育を「上尾学」として推進するなど、市民が子どもの頃から上尾について理解している状態が理想です。

「生涯学習」では、市民の活動場所が確保されるとともに利用しやすい環境が整備されており、施設の利便性が向上している状態が理想です。

「スポーツ・レクリエーション」では、気軽に運動に親しめる環境が整い、健康活動が促進されており、また「スポーツのまち」として若者に人気のスポーツ施設が整備され、広く情報発信をすることで若者の人口増に繋がっている状態が理想です。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、歴史・文化・芸術を子ども達に伝える機会の充実、文化祭・各サークル団体へ参画など、世代を超えた交流を通して、上尾について学習する機会を増やすほか、幅広い世代の市民のスポーツ・レクリエーション企画、イベントの参加を通じた地域の繋がりの強化が必要です。

また、行政に期待することとして、市民が気軽に文化・芸術、スポーツに取り組めるよう、総合文化センターの整備や、市民意見を取り入れた文化・スポーツイベントの実施など市民参加の拡充に努めるとともに、「スポーツのまちあげお」を市外にアピールするなど、広報活動の充実を求めたいと思います。(矢島委員)

司 会：ありがとうございました。続いて、「I 教育グループ」に発表していただきたいと思ひます。発表者は的場さんです。それではお願いいたします。

委 員：I グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「質が高く、柔軟性のある教育環境」「充実した基礎学力をもとに、発想が豊かな子どもが育つ」としました。この目標を達成するために、「教育環境」「教育活動」に分類して考えました。

「教育環境」では、誰もが学びやすく、教育格差のない環境を整備し、教育の質の向上につながっている状態が理想と考えました。

「教育活動」では、学ぶことの大切さを理解した上で、自主的に子どもがいきいき学べるような自由な雰囲気での教育活動など、夢や希望を育む教育が実現された状態が理想と考えました。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、子どもがいきいき学べる環境づくりのために、地域の見守り活動への参加や世代を超えて一緒に学ぶことで、学びの楽しさを伝えるなど、子どもとの交流を通じた教育活動への参加が必要です。

また、行政に期待することとして、教員の働く環境改善や多様な学び方の推進のために、A I ・ I C T環境の整備のほか、少人数学級の実現など、教員の負担軽減に向けた取組み、従来の形式にとらわれない世代間交流イベントの企画やキャリア教育を通じた職業体験など自分らしく学べる教育活動の実現を求めたいと

思います。(的場委員)

司 会：ありがとうございました。続いて、「J 産業グループ」に発表していただきたい
と思います。発表者は宮田さんです。それではお願いいたします。

委 員：J グループの発表を始めます。私たちのグループでは、理想の状態を「誰もが持
続可能な働き方を実現」としました。「産業」の理想の状態としては、「収入が安
定していること」、「後継者がいること」、「働ける場があること」等が目標として
挙げられます。この目標を達成するために、「農業」「商業」「工業」「観光」「勤労
者・就労支援」に分類して考えました。

「農業」では、安定した収入の確保や後継者不足が解消された状態が理想です。
「商業」では、独自性のある商店街の活動により他地域との差別化を図るほか、
観光協会によるバックアップ体制の充実、積極的な情報発信が行われている状態
が理想です。

「工業」では、通勤環境が整った工業専用の区域の整備や各事業者が操業しやす
く、従業員が働きやすい環境を整備した状態が理想です。

「観光」では、歴史や自然など上尾の地域資源の再発見による新たな観光資源を
創出や、鉄道など既存の観光資源の活用など、上尾独自の観光スタイルを確立し
た状態が理想です。

「勤労者・就労支援」では、創業の機運を高め創業のきっかけづくりを行うため
の相談体制の確立のほか、働く人の健康管理を企業の責任で守る健康経営の実施、
独自の情報発信などにより、高齢者や障害者など誰もが働きやすく、チャレンジ
しやすい環境づくりや健康経営が推進された状態が理想です。

最後に、「市民と行政の役割分担」について、私たちが進めることとして、元気で
働ける状態を保つために、予防医学へ取り組むこととともに、農作物の提供による
地産地消への貢献など、産業を通じた地域参加が必要です。また、上尾の魅力再
発見や、若者への情報発信、新しい担い手の育成が必要です。

また、行政に期待することとして、農業・商業・工業を維持・発展するために利
用しやすい支援制度の仕組みづくりが望まれます。また、地場野菜の販売場所の
提供、産業に特化した地域整備や地域資源を市外への情報発信などハード・ソフ
ト面での行政サポートを求めたいと思います。(宮田委員)

4 提言書の提出

司 会：ありがとうございました。それでは提言書の提出に移りたいと思います。

《矢島委員長、刀根副委員長より、市長に提言書を提出》

5 閉会

司 会：ありがとうございました。

以上をもちまして、1年以上に渡って討議頂きました「あげお未来創造市民会議」を終了します。

今回いただいた提言については、施策に反映できるように調整していきます。また、総合計画のみならず、各分野別の計画の策定にも参考とするべく、各部と共有してまいります。

長期間に渡り、貴重なお時間を頂きまして、本当にありがとうございました。

以上